



平成28年度

鳴門教育大学小学校英語教育センターシンポジウム

— 小学校英語教科化に向けた「評価」のあり方～指導と評価の一体化～ —



10月15日(土)、シビックセンターにおいて、平成28年度小学校英語教育センターシンポジウム『小学校英語教科化に向けた「評価」のあり方～指導と評価の一体化～』を開催した。平成17年度に小学校英語教育センターを設置し、小学校英語教育に関するカリキュラム開発、研修・支援プログラム開発等の取組を行っており、このシンポジウムはその事業の一つとして開催したものである。

シンポジウムでは長野県小諸市教育委員会からの招聘講師による基調講演に加えて、「指導と評価の一体化」を念頭においた学校教育現場での先進的な実践を行っている小学校の先生方から、これまでの取組の概要と成果や問題点について報告があった。また、小学校英語教育での「評価のあり方」や今後の課題について質疑応答を行った。

当日は、70人が参加し、盛況のうちに終了した。

多数のご参加をいただきありがとうございました。

13:30～13:40 開会
挨拶 鳴門教育大学 理事 大石 雅章

A 13:40～15:00 基調講演
【小学校英語教育で4技能を統合化した
指導とその評価】
信州大学 名誉教授 小諸市教育委員会 指導主事
渡邊 時夫氏

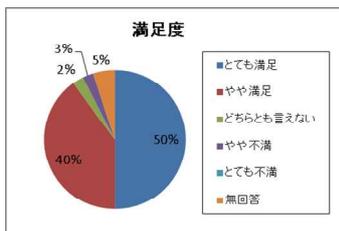
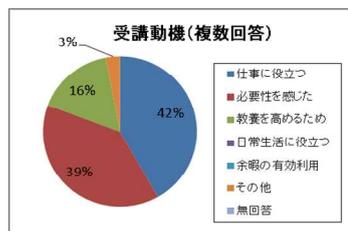
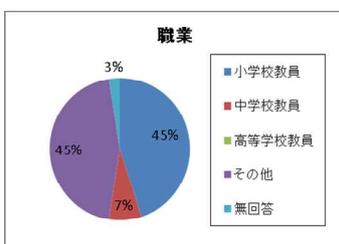
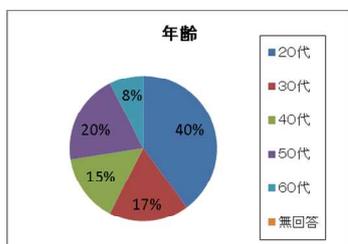


B 15:10～16:10 パネルディスカッション
【小学校英語における評価の一つのあり方
:これまでとこれから】
埼玉県熊谷市立別府小学校 教諭 深澤 信也氏
【教科としての小学校英語の指導に関する実践的報告
:評価に焦点をあてて】
高知県中土佐町立久礼小学校 JTE 市原 佐知氏



C 16:20～16:50 フロアとの質疑応答
16:50～16:55 閉会
挨拶 鳴門教育大学小学校英語教育センター所長 石濱 博之

アンケート



小・中英語教育研修への講師派遣

A 徳島県の「平成28年度外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の研修協力校（北島中学校）にて、11月21日、第3回公開研修の講師として小学校・中学校の先生方24名を対象に「文字指導を通じた効果的な小中連携」について研修を行いました。本研修会は、小学校外国語活動の推進及び充実、ならびに小・中連携のために開催されましたが、小学校における文字指導のあり方や、読み書きも含めた小・中の滑らかな接続について、本センターと附属小学校・中学校との共同研究の成果を交えてお話させていただきました。そして、現在、研究開発学校で試行的に活用されている、Hi, friends! Plusという文字指導のためのICT教材の内容についての問題点を共有し、小学校における適切な文字指導法や本センターで制作した文字指導のためのICT教材「アルファベットの大文字・小文字を覚えよう」、「アルファベットの音を覚えよう」を使っての授業を体験していただきました。また絵本を使って、意味と共に包括的に単語や文に馴染むための、「サイト・ワード・リーディング」についてもご紹介しました。

今後、このように、小学校から系統立てた文字指導をすることで、高学年児童に合った、文字を含む知的な英語活動を可能にします。さらに、小学校で培った四技能の素地を中学校でより伸ばすために、多読やエッセイ・ライティングを継続的に行うことの必要性も確認しました。（畑江）



B On November 21, I visited Yamaguchi City for the first time to give a keynote speech at the annual ALT mid-year training session. ALTs and Japanese teachers of English were both in attendance. I had been looking forward to the opportunity to speak to a large number of ALTs and Japanese Teachers of English and was hoping to give everybody something useful that they could take back to their workplace with them. Our research has shown that one of the big limitations of team teaching is that ALTs and Japanese teachers often have a poor mutual understanding of each other. The goal of the speech was to help improve communication and understanding between these two groups. In the latter half of the speech I introduced comments and advice given by actual ALTs and Japanese teachers for each other in Tokushima Prefecture. The participants really seemed to enjoy these “voices from the classroom”. They generated a lot of interesting discussion and I look forward to using this material again in future workshops.

（ジェラード マーシェン）

C 上越市立宮嶋小学校で、平成28年12月8日（木）に5・6年生の合同で外国語活動の授業を実施しました。話題は「数をかぞえよう」でありました。筆者、学級担任、ALTでそれぞれ役割分担をしながら、児童に数の概念を教えました。特に、英語で足し算・引き算・かけ算・割り算をする「計算ゲーム」（はえたたきゲーム）を実施しました。児童が、英語での計算を聴いて該当する数をはえたたきするのです。グループ対抗のゲームで児童は積極的に取り組みました。

次の日（平成28年12月9日（金））、十日町市立馬場小学校で、「行きたい国はどこですか」という話題で授業実践を試みました。馬場小学校は、平成20年度から、筆者は、年間に1回、授業実践と教員研修を兼ねた教員研修を実施しています。その一環として、今回は、筆者とALTと協力しながら、5・6年生の児童に授業実践を試みました。

その後、教員研修では、2020年度（平成32年度）からの小学校英語の教科化に伴う内容についてお話をしました。今後、「教員研修をしながら小学校英語の教科化に向けて、英語教育を充実させたい」と言われました。（石濱）

